

# 農林水産部

## 農林水産委員会 【所管事項関係資料】

11 月 26 日提出

# 目 次

- 1 輸出の取組状況と今後の対応について  
[農業経済課販売戦略室・畜産振興課・林業木材産業課] ----- 3
- 2 サキホコレのブランド化戦略の推進について  
[水田総合利用課秋田米ブランド推進室] ----- 5
- 3 森林病虫害による被害状況と今後の対策について [森林環境保全課] ----- 8

# 1 輸出の取組状況と今後の対応について

農業経済課販売戦略室  
畜産振興課  
林業木材産業課

## 1 今年度の取組状況

### (1) 台湾

- 台中での秋田牛のカット技術講習会（5月）
- 台北・高雄での秋田牛・ねぎ・シャインマスカット・りんごのトップセールス（8月・11月）
- 木材・木製品のマーケット調査、県内産地見学会、台湾から講師を招いた輸出セミナー（9月・11月）

### (2) タイ

- 秋田牛のトップセールス、カット技術講習会（11月）
- シャインマスカット・和なし・りんごのPRイベント（10月・11月・12月）

### (3) シンガポール

- 実需者を対象とした米・冷凍えだまめ等の商談会、食と観光PRイベント（10月）

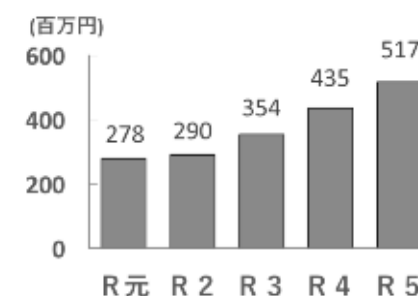
## 2 これまでの主な成果

### (1) 農産物

- 台湾・タイでは、PRイベントの開催と商談支援により、百貨店やホテル等との取引が増加し、輸出量が増加した。
- シンガポールでは、商談会やイベントへの出展により、大手輸入業者を介した輸出ルートを構築した。



〔 高級焼肉店への  
トップセールス 〕



〔県産農畜産物の輸出額〕

## **(2) 秋田牛**

- トップセールス等の実施により、台湾やタイの高級飲食店で新規に取扱いが開始された。

## **(3) 木材・木製品**

- 台湾の高級住宅で使用する内装材（天井、壁）拡大等のニーズを確認するとともに、現地の工務店等と県内製材企業とのマッチングが図られた。

# **3 今後の対応方針**

## **(1) 輸出促進に向けた体制づくり**

- 生産者、農業団体、流通業者等による協議会を設立し、オール秋田で輸出の促進を図る。

## **(2) 農産物の輸出に向けた産地の育成**

- 環境への負荷が少ない農薬を使用するなど、海外のニーズに対応した栽培体系を確立する。

## **(3) 認知度向上と需要拡大**

- 農産物
  - ・ プロモーションを継続するとともに、新たな輸出ルートの構築に向けた実需者との商談の強化を図る。
- 秋田牛
  - ・ 観光と連携したPRやECサイトの活用に取り組むとともに、部位に応じたカット技術や調理方法の普及を図る。
- 木材・木製品
  - ・ 台湾の建築・住宅業界を対象とした展示会や商談会を開催する。

## 2 サキホコレのブランド化戦略の推進について

水田総合利用課秋田米ブランド推進室

### 1 今年度の状況

- 18生産団体、1,647haで作付けし、収量は前年並の480～540kg/10a、集荷量は8,500t程度となる見込み。
- 品質は、ほぼ全量が1等米で、玄米タンパク質含有率も基準の6.4%以下となっている。
- 特別栽培の作付割合は、令和5年産が4割、6年産が7割と拡大している。
- 販売は、11月7日現在で、868t(県内240t、県外628t)が出荷されており、概ね順調に推移している。

### 2 6年産新米プロモーションの状況

#### (1) イベント・キャンペーン

##### ア 出来映え報告会

- ・ 実施日 9月22日
- ・ 内容 壇蜜氏らによる新米おにぎりの試食、新米販売に関する告知

##### イ 食べよう！贈ろう！サキホコレ新米キャンペーン

- ・ 期間 10月5日～12月22日
- ・ 内容 購入者に抽選でサイン入りクッション等をプレゼント

##### ウ 大手食品メーカーと連携したキャンペーン

- ・ 期間 11月1日～1月31日
- ・ 連携企業 丸美屋食品工業（株）
- ・ 内容 「家族のお茶漬けキャンペーン」の賞品に採用  
県内量販店において「丸美屋ふりかけ×サキホコレ」の試食販売を実施



〔出来映え報告会〕



〔試食販売キャンペーン〕

エ 学校給食への提供

- ・ 期 間 11月19日～22日
- ・ 内 容 県内の小・中学校等(284校)において、約63,500食を提供

(2) 情報発信

ア テレビCMの放映

- ・ 県 内 10月19日～11月2日
- ・ 県 外 11月2日～1月13日

イ 交通広告の掲出

- ・ 期 間 11月4日～10日
- ・ 場 所 首都圏のJR19駅（東京駅、新宿駅、横浜駅ほか）
- ・ 内 容 駅構内のデジタルサイネージに広告を掲出

ウ 機内食におけるメニュー提供

- ・ 期 間 12月1日～2月28日
- ・ 路 線 ANA国際線（欧米路線）のファーストクラス
- ・ 内 容 和食コースでサキホコレを提供

エ 秋田米ウェブサイト、SNSの活用

(3) 販売チャネルの開拓

ア 量販店におけるトップセールス

- ・ 実 施 日 11月4日、11月16日
- ・ 場 所 スーパーヤマイチ今井店（東京都江戸川区）  
イトーヨーカドー大森店（東京都大田区）

イ シェフの産地招聘

- ・ 実 施 日 9月23日
- ・ 内 容 首都圏著名シェフによる稲刈り体験、新米の試食



〔学校給食への提供〕



〔機内食への提供〕



〔シェフの産地招聘〕

### 3 今後の取組

#### (1) サキホコレ栽培技術向上フォーラムの開催

- ・ 実施日 12月20日
- ・ 内容 食味コンテスト、先進事例研修ほか

#### (2) 大相撲一月場所における懸賞旗の掲出

- ・ 内容 本県ゆかりの王鵬関の取組に懸賞旗を掲出

#### (3) 量販店等における販売促進キャンペーンの実施

- ・ 場所 県外の量販店・百貨店等（100店舗程度）

#### (4) 飲食店フェアの開催

- ・ 期間 2月1日～28日
- ・ 場所 首都圏の高級ホテル・飲食店等（10店舗程度）

#### (5) 展示商談会への出展

- ・ 期間 2月12日～14日
- ・ 場所 幕張メッセ（スーパーマーケット・トレードショー2025）

### 4 作付推奨地域外における栽培試験

- 令和4年度から判定基準をクリアしている24地域が今年も達成すれば、作付推奨地域に編入される。

〔判定基準〕

- ① 地域単収と同等の収量の確保
  - ② 白米アミロース含有率20%以下
  - ③ 品質・出荷基準の達成（等級、タンパク、水分）
- ※①～③を3年連続で達成



〔大相撲懸賞旗〕

〔6年度編入可能性のある地域数〕

| 試験地 | 地域数   |
|-----|-------|
| 鹿 角 | 1/1   |
| 北秋田 | 0/6   |
| 山 本 | 4/8   |
| 秋 田 | 4/4   |
| 由 利 | 6/6   |
| 仙 北 | 5/5   |
| 雄 勝 | 4/5   |
| 合 計 | 24/35 |

### 3 森林病虫害による被害状況と今後の対策について

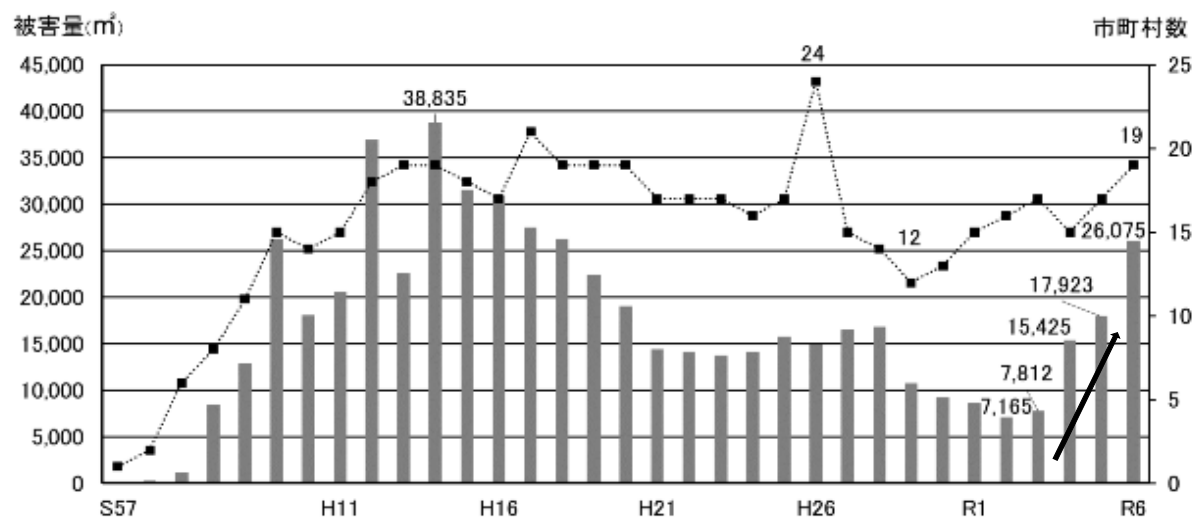
森林環境保全課

#### 1 被害状況

##### (1) 松くい虫被害

- 民有林における松くい虫被害量は、平成14年度の38,835m<sup>3</sup>をピークに減少傾向にあったが、令和3年度以降増加しており、令和6年度は26,075m<sup>3</sup>（前年比145%）となった。
- 地域別では、秋田地域が18,505m<sup>3</sup>と全県の約7割を占めており、特に、秋田市から男鹿市にかけての海岸沿いで被害が多い。
- 被害増加の主な要因は、7月下旬から9月上旬までの高温少雨により松の樹勢が衰えたことや、温暖化の影響によりマツノマダラカミキリの生息期間が長期化したためと推測される。

【松くい虫被害量の推移】



※市町村数は合併後の25市町村をベースにカウント

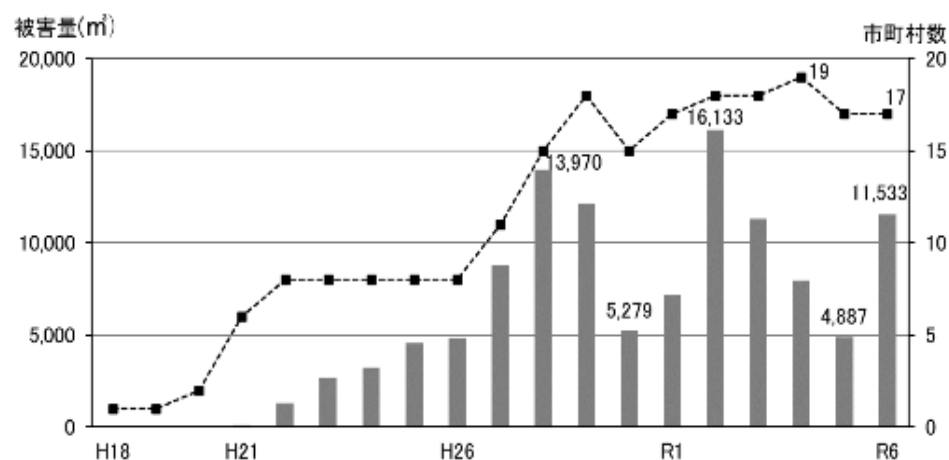
【地域別の松くい虫被害量】

| 地域  | 被害量(m³) |        | 前年比  |
|-----|---------|--------|------|
|     | R5      | R6     |      |
| 北秋田 | 36      | 321    | 892% |
| 山本  | 2,081   | 5,738  | 276% |
| 秋田  | 14,245  | 18,505 | 130% |
| 由利  | 1,449   | 1,397  | 96%  |
| 仙北  | 15      | 35     | 233% |
| 平鹿  | 28      | 30     | 107% |
| 雄勝  | 69      | 49     | 71%  |
| 計   | 17,923  | 26,075 | 145% |

## (2) ナラ枯れ被害

- 民有林におけるナラ枯れ被害量は、令和2年度の16,133 $\text{m}^3$ をピークに減少傾向にあったが、令和6年度は11,533 $\text{m}^3$ （前年比236%）と増加した。
- 地域別では、仙北地域が6,437 $\text{m}^3$ と全県の約6割を占めており、特に、仙北市の神代地区周辺で被害が多い。
- 被害増加の主な要因は、7月下旬から9月上旬までの高温少雨によりカシノナガキクイムシが増殖したためと推測される。

【ナラ枯れ被害量の推移】



【地域別のナラ枯れ被害量】

| 地域  | 被害量( $\text{m}^3$ ) |        | 前年比  |
|-----|---------------------|--------|------|
|     | R5                  | R6     |      |
| 北秋田 | 23                  | 2      | 9%   |
| 山本  | 694                 | 1,302  | 188% |
| 秋田  | 105                 | 83     | 79%  |
| 由利  | 499                 | 613    | 123% |
| 仙北  | 1,950               | 6,437  | 330% |
| 平鹿  | 836                 | 1,796  | 215% |
| 雄勝  | 780                 | 1,300  | 167% |
| 計   | 4,887               | 11,533 | 236% |

## 2 今後の対策

- 保全すべき松林<sup>※1</sup>において、伐倒駆除や薬剤散布等の防除を推進するほか、その他の松林においては、管理者等に伐倒駆除等の実施を指導する。
- 守るべきナラ林<sup>※2</sup>において、伐倒駆除や殺菌剤の樹幹注入を推進するほか、その他のナラ林においては、管理者等に被害木の伐採や老齢ナラ林の更新の実施を指導する。

※1 保安林、景勝地など、将来にわたり松林として保全していく必要のある森林で県や市町村が指定したもの

※2 ナラ枯れ被害により、国土保全や景観に影響を及ぼすおそれのある森林で市町村が指定したもの